

海外出張報告書

令和6年3月19日

名古屋市会議長
成田 たかゆき 様

名古屋市会副議長 長谷川由美子
名古屋市会議員 北野よしはる
名古屋市会議員 山田 昌弘
名古屋市会議員 近藤 和博
名古屋市会議員 沢田 ひとみ

令和5年12月6日付の議決に基づき、令和5年12月10日から12月14日までの間、名古屋市会シドニー市姉妹都市交流公式代表団として、シドニー市及びモスマン市へ出張しましたので、その概要を報告いたします。

(随 行)

名古屋市会事務局総務課
主幹(秘書) 佐竹 亮 一

議員の派遣

令和5年12月6日

地方自治法第100条第13項及び名古屋市会会議規則第54条の2の規定により下記のとおり議員を派遣する。

記

名古屋市会シドニー市姉妹都市交流公式代表団

- (1) 派遣目的 シドニー市表敬訪問
シドニー市姉妹都市交流行事参加
産業経済状況調査
動物園施策調査
- (2) 派遣場所 シドニー市、モスマン市
- (3) 派遣期間 令和5年12月10日から12月14日まで
- (4) 派遣議員
- | | | | | | |
|-----|-----|----|------|----|----|
| 長谷川 | 由美子 | 北野 | よしはる | 山田 | 昌弘 |
| 沢田 | ひとみ | 近藤 | 和博 | | |

目 次

はじめに	1
日程	2
◆シドニー市姉妹都市交流行事等	
12月11日(月)	
ジェットロ・シドニー事務所	3
クレア・シドニー事務所	7
在シドニー日本国総領事館	11
カスタム・ハウス図書館	15
12月12日(火)	
オーストラリア博物館	19
タロンガ動物園	23
12月13日(水)	
ナゴヤ・ガーデン	29
シドニー市役所	30
グリーンスクエア再開発地区	33
おわりに	36

はじめに

長谷川由美子副議長を団長に、自由民主党名古屋市会議員団、名古屋民主市会議員団、公明党名古屋市会議員団、減税日本ナゴヤの各会派代表からなる名古屋市会シドニー市姉妹都市交流公式代表団一行は、令和5年12月10日(日)に日本を出国し、シドニー市及びモスマン市を訪問し、表敬訪問、姉妹都市交流行事及び調査を行い、同年12月14日(木)に帰国した。

この間、本市と姉妹都市提携をしているシドニー市では、産業経済状況調査としてジェットロ・シドニーへ赴き、また、表敬訪問としてクリア・シドニー及び在シドニー日本国総領事館へ赴き、それぞれ名古屋市とシドニー市の姉妹都市交流の報告、シドニー市をはじめとしたオーストラリアの経済事情などについて説明を聴取するとともに意見交換を行った。

また、姉妹都市交流行事として、カスタム・ハウス図書館、ナゴヤ・ガーデン、シドニー市役所に赴き、シドニー市副市長へ表敬訪問を行うとともに、カスタム・ハウス図書館と本市鶴舞中央図書館との図書交流に関する覚書の締結やナゴヤ・ガーデンに係る植樹記念プレートの贈呈などの行事に参加した。

また、オーストラリア博物館に赴き、視察を行うとともに自然科学分野に強みをもつオーストラリア博物館と本市科学館との今後の交流・連携にあたり、本市科学館職員とともに表敬訪問を行った。

また、シドニー市長の肝いりの施策とされるグリーンスクエア再開発地区に赴き、現場視察や質疑などを通じ産業経済状況調査を行った。

モスマン市では、本市東山動植物園と姉妹動物園提携をしているタロンガ動物園に赴き、園内の視察や質疑などの動物園施策調査を行うとともに両園の動物交流などについての意見交換を行った。

以下、両都市において行った表敬訪問、姉妹都市交流行事及び調査の概要を、日を追って順に報告する。

名古屋市会シドニー市姉妹都市交流公式代表団 日程

日付	地名	日程
12/10(日)	名古屋駅 羽田空港	・鉄道 東京へ ・空路 シドニーへ
12/11(月)	キングスフォード・ スミス国際空港 シドニー市	○ジェットロ・シドニー事務所 ○クレア・シドニー事務所 ○在シドニー日本国総領事館 ○カスタム・ハウス図書館 【シドニー泊】
12/12(火)	シドニー市 モスマン市	○オーストラリア博物館 ○タロンガ動物園 【シドニー泊】
12/13(水)	シドニー市	○ナゴヤ・ガーデン ○シドニー市役所 ○グリーンスクエア再開発地区 【シドニー泊】
12/14(木)	キングスフォード・ スミス国際空港 羽田空港 名古屋駅	・空路 日本へ ・鉄道 名古屋へ

令和 5 年12月11日(月)

- ◆12 月 10 日に名古屋駅を出発した公式代表団一行は、羽田空港から空路でキングスフォード・スミス国際空港へ向かい、翌12月11日に到着し、最初の訪問先である(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)シドニー事務所にて産業経済状況の調査を行った。
- ◆ジェトロ・シドニー事務所での調査終了後、松雄副市長一行と合流し、(財)自治体国際化協会(クリア)シドニー事務所、在シドニー日本国総領事館の順で表敬訪問し、名古屋市とシドニー市の姉妹都市交流の報告やシドニー市をはじめとしたオーストラリアの経済事情などについて説明を聴取しながら意見交換を行った。
- ◆在シドニー日本国総領事館での表敬訪問終了後、引き続き、松雄副市長一行とともに、カスタム・ハウス図書館を訪問し、館内を視察するとともに姉妹都市交流行事に参加した。

ジェトロ・シドニー事務所(産業経済状況調査)

- 時 間 12 月 11 日(月)午前 10 時から午前 11 時
- 場 所 ジェトロ・シドニー事務所
- 対応者 渡邊 尚之 ジェトロ・シドニー事務所長

ジェトロ・シドニー事務所では、長谷川副議長、渡邊所長から、それぞれ挨拶があった後、オーストラリア概況と日系企業の進出動向についての説明を聴取し、質疑を行った。主な説明・質疑応答等の調査の概要は下記のとおりである。

■渡邊所長による説明(概要)

【オーストラリアの一般概況について】

オーストラリアの面積は日本の約 20.3 倍、人口は日本の約5分の1で、居住者の出生地としては約3割が海外となっており移民の割合が多いことが特徴である。在留邦人数は約 9 万5千人であり、アメリカ、中国

に次いで3位となっている。広大な国土がある一方、人口はシドニーを含めた南東部に集中しており、商圈は東海岸の主要都市に集中している。商習慣としては、キャッシュレス、ペーパーレスが一般的である。

【経済動向について】

実質 GDP 成長率では、1991 年から 2019 までの 28 年間、景気後退（2 四半期連続のマイナス成長）がなく、先進国として稀有な経済成長を記録していた。2020 年には新型コロナウイルス感染症の影響により景気後退入りとなったが、2021 年以降は再び景気回復局面に入ったと予測されている。経済成長を支えている



【渡邊所長】

要因の一つとして人口増があり、人口増の約 6 割が移民によるものである。オーストラリア統計局による人口予想では 2071 年に 3,919 万人（中位推計）へ達する見通しである（2023 年 3 月現在で人口は 2,647 万人）。移民の人口構成比は、国別でイギリス、インド、中国が多く、特にインドからの移民が増加している。インドからの移民の特徴としては、主に IT や情報サービス分野などに長けた労働者が多いことである。産業別 GDP の内訳としては、金融・保険・不動産サービスなどのサービス業が 72% と一番割合が高く、次いで工業の 25% となっている。工業では、豊富な資源（鉄鉱石・石炭・天然ガス）があることから鉱業中心であることが特徴である一方、製造業については、人件費の高騰等もあり割合が少ないことが特徴である。オーストラリアの対日貿易構造としては、鉱物性燃料（石炭・天然ガス・鉄鉱石）が 8 割以上を占めている。その内、石炭については主に火力発電の燃料とされており、脱炭素社会を迎える中、今後どう推移していくかが注視されているところである。

【エネルギー分野の動向について】

脱炭素社会の流れの中、オーストラリアの発電に占める石炭の割合は、1995 年の約 82% から 2021 年には約 53% に減少し、天然ガスと再生可能エネルギーの割合が増加している。石炭については、シドニー市

のあるニューサウスウェールズ州では埋蔵量も多く割合が高い、また、石炭から再生可能エネルギーへの転換は、炭鉱などに従事する労働者の失業にもつながる懸念があることから、転換を急激に進めることには課題がある。オーストラリア政府は世界的な水素大国を目指し国家水素戦略を策定し、2030年までに水素産業を創出するとしている。水素の商業化には、他のエネルギーに比べコストが高いことなどの課題があり、その課題に対し、政府としてはグリーン水素の技術が確立するまでの間は比較的成本の安いブルー水素を中心とし、商業化への足掛かりをつくるなどの方針・対策を掲げている。日本との関係では、2022年2月に、水素実証船「すいそふろんていあ」がオーストラリアで液化水素を積んで神戸港に帰港しているなどの関わりがある。



【説明を聴取する様子】

【人件費の高騰と人手不足について】

オーストラリアの最低賃金は、OECDの発表データ(2022年)によると主要32か国の中で2番目に高い金額となっている。2023年7月現在の最低賃金では、23.23豪ドルと日本円で2,000円を超える額となっている。人手については、新型コロナウイルス感染症の影響により、移民が母国に帰国すると同時に、国境が閉じて新しい移民が入ってこなくなったことなどから、不足の状況が続いている。

■質疑応答(概要)

【質 問】

オーストラリアは、移民を政策として行うことにより、人口増やそれに伴い労働者の確保にもつなげているものと認識しているが、移民を受け入れる際の施策や課題などがあれば教えてほしい。

【回 答】

オーストラリアの人口は、移民・自然増により、約3年ごとに100万人増加するペースで増加しており、経済成長を支えている要因である。移民については、IT などの技術を持つ方、資産があり内需拡大を期待できる方や優秀な留学生により多く来ていただくための取り組みを行うことが重要である。例えば、ビザや留学生の受け入れ条件を厳格化することや受け入れ側の大学に質の高いプログラムを求めることなどにより、その取り組みを進めていくこととなると考えている。

【質 問】

オーストラリアのエネルギー戦略について、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)と日本企業が未利用褐炭由来のブルー水素を液化し神戸港まで海上輸送する実証実験を行っていると思うが、ブルー水素からグリーン水素への転換方針がある中、褐炭の埋蔵量、国際競争を含めて、この取り組みの今後の見通しはどうであるのか。



【質疑の様子】

【回 答】

褐炭については、日本のエネルギー需要の200年分以上に相当する埋蔵量があるため資源枯渇の心配はない。ただし、国としてはブルー水素からグリーン水素に切り替える大きな方針に基づき、国からの補助にも差をつける流れになっていることから、いずれ転換されていくものと認識している。オーストラリアにおける水素プロジェクト106件のうち、日系企業が関わる水素等のプロジェクトは35件あり、中には太陽光発電からグリーン水素を作る取り組みがなされているなど様々なプロジェクトが進められているところである。



【名古屋市会公式代表団と渡邊所長】

クレア・シドニー事務所(表敬訪問)

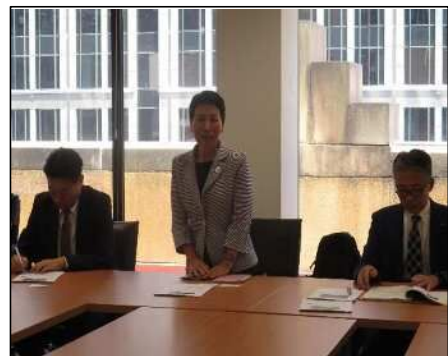
- 時 間 12月11日(月)午後1時30分から午後2時30分
- 場 所 クレア・シドニー事務所
- 対応者 平木 万也 所長
小泉さよ子 次長

クレア・シドニー事務所では、松雄副市長、長谷川副議長、平木所長から、それぞれ挨拶があった後、オーストラリアの概況についての説明を聴取し、意見交換を行った。表敬訪問の主な概要は下記のとおりである。

- 松雄副市長からは、姉妹都市45周年に向けた協力依頼や観光や教育分野に特に力を入れていきたいと考えており、情報提供をお願いしたい旨の挨拶があった。

■長谷川副議長による挨拶(概要)

平木所長をはじめ皆様方には私どもの訪問を快く受け入れていただき感謝申し上げます。シドニーと本市は姉妹都市提携から今年で43年を迎え、これまで両市においては動物交流、高校生の派遣交流をはじめ幅広い分野において交流を行ってきた。また、小泉次長におかれては本市からの派遣職員としてこのクレア・シドニーにおいてご活躍であるとお聞きしている。これから3日間は、両市がより強い絆で結ばれるよう交流を深めてまいりたいと考えている。クレア・シドニーの皆様におかれましては、引き続きご支援・ご協力をお願いしたい。



【長谷川副議長の挨拶の様子】

■平木所長による挨拶(概要)

本日はお忙しい行程の中、クリア・シドニー事務所に訪問いただき感謝申し上げます。また、名古屋市からクリア・シドニー事務所の次長として歴代職員を派遣いただいていることから、大変お世話になっており感謝申し上げます。この4月以降、新型コロナウイルス感染症の5類への位置付けの変更等により、日本の各自治体からシドニー事務所への訪問が増えている。その中で、各自治体から姉妹都市交流の成功事例を尋ねられることがある。その際には、名古屋市は取り組みを幅広い分野にわたっていることなどから、好事例として各自治体に対して発信させていただければと考えている。本日は、はじめにオーストラリアの概要について説明した後、意見交換を行いたいと考えている。

■平木所長による説明(概要)

【オーストラリアの基本情報について】

オーストラリアの国土は約769万キロ平米で日本の約20倍、一方で人口は2,647万人と日本の約5分の1となっている。また、シドニー、メルボルン、ブリスベン、パースをはじめとした大都市に人口が集中していることが特徴である。



【経済成長の状況について】

実質 GDP の推移で見ると、1991年以降、新型コロナウイルス感染症での影響のあった2020年付近を除きプラスとなっており経済成長を遂げていることがわかる。しかし、2024年に向けての経済成長では、国によると、物価高騰の影響に伴い家庭での消費が低迷することなどから、成長率が鈍化すると予測されている。



【平木所長からの説明聴取の様子】

【日本とオーストラリアの姉妹都市交流について】

2023年12月現在で、108の日本の地方自治体(都道府県6・市区町村102)がオーストラリアの地方自治体と姉妹都市提携を結んでいる。姉妹都市交流の分野としては、教育(学生交流)の割合が高いことが特徴である。その要因としては、日本側からの英語教育の需要があること、オーストラリアにおいて日本語の学習者が多いこと、時差がなく両国間において連絡が取りやすいことなどが挙げられる。

【旅行者の推移について】

オーストラリアから日本への旅行者数については、2011年の約16万2千人から2019年の約62万1千人へと約4倍に増加していた。2020年から2022年までは新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込んだが、2023年には約46万4千人と2017年の数に迫る増加を見せている。オーストラリアからの旅行者の特徴としては、一人あたり旅行支出額が24万8千円と高く、また平均滞在日数が9.8日と長いことである。日本への訪問時期(4月・9月)を比較すると4月のほうが訪問者が多い傾向があり、理由としては桜が人気であること、スクールホリデーの時期が重なることが挙げられる。

■意見交換(概要)

【質 問】

物価高騰については、物価高騰に応じた賃金の引上げや施策での対応が日本でも課題となっているが、オーストラリアでの状況はどうか。

【回 答】

オーストラリアにおいても日本と同様、物価高騰に賃金上昇率が追いついていない状況であり、物価高騰対策として今後どう取り組んでいくのかが課題となっている。

【質 問】

オーストラリアから日本への観光需要がある中、名古屋への観光誘致

をどう進めていくかが肝心である。シドニーに滞在している経験の中から何か所感があればアドバイスをいただきたい。

【回 答】

オーストラリアから日本への旅行先としては、スキー需要の北海道や東京・大阪・京都・広島といわゆるゴールデンルートが知名度も高く、人気があることから、いかに名古屋で降りていただくかが課題ではないか。オーストラリア観光客は日本の伝統・食・文化に関心が高く、名古屋としてコンテンツをどう作って呼び込んでいくかが肝要であり、その点、スタジオジブリは有用なコンテンツの一つになりうるのではないかと思う。

【質 問】

日本からオーストラリアに行った際に、日本人がアボリジニーなどのオーストラリアの文化を学んだりする機会などはあるのか。

【回 答】

観光旅行のツアーの中でといったことは耳にしたことはないが、学生が姉妹都市交流の中で先住民の方と交流するといったことは耳にしたことがある。私が参加した姉妹都市交流に係る周年事業において、アボリジニーの方に伝統芸能の音楽を披露いただいたこともあった。また、美術館において、アボリジニーアートに触れていただくこともできる。



【意見交換終了後に長谷川副議長から
平木所長への記念品贈呈(上)】



【平木所長を囲んで(右上)】
【クレア・シドニー正面にて(右)】

在シドニー日本国総領事館(表敬訪問)

- 時 間 12月11日(月)午後3時から午後4時
- 場 所 在シドニー日本国総領事館
- 対応者 徳田 修一 総領事
関山 雄太 副領事

在シドニー日本国総領事館では、松雄副市長、長谷川副議長、徳田総領事から、それぞれ挨拶があった後、ニューサウスウェールズ州の概況についての説明を聴取し、意見交換を行った。表敬訪問の主な概要は下記のとおりである。

- 松雄副市長からは、オーストラリア博物館への訪問にあたり調整いただいたことについて謝意が述べられるとともに今後についても引き続き協力をお願いしたい旨の挨拶があった。

■長谷川副議長による挨拶(概要)

私どものシドニー市訪問に際し、徳田総領事はじめ皆様とお会いする機会をいただき感謝申し上げます。また、明日訪問予定のオーストラリア博物館と本市科学館との交流に際し、多大なご尽力をいただき感謝申し上げます。

本日からの3日間は、シドニー市と本市が未来へ向かってより強い親善の絆で結ばれるよう交流を深めてまいりたいと考えている。在シドニー日本国総領事館の皆様におかれましては、両市の友好・交流が一層深まるよう、引き続きご支援・ご協力をお願いしたい。



【訪問時の様子】

■ 徳田総領事による挨拶(概要)

過分なお言葉をいただき大変光栄である。名古屋市から力強く姉妹都市交流への思いを聞かせていただき大変嬉しい思い。クリア・シドニー事務局次長が歴代名古屋市からの派遣であることから、名古屋市が交流事業を進めるに際しては、シドニー現地での強力なサポートとなっていると思うが、私自身も大変心強く感じているところである。今回の訪問に際し、総領事館として、フォローアップを含めてしっかり対応させていただきたいと考えている。



【徳田総領事(左)と関山副領事(右)】

■ 徳田総領事による説明(概要)

【ニューサウスウェールズ州の特徴】

ニューサウスウェールズ州の樹立は1855年で豪州最古の州である。ニューサウスウェールズ州にとって日本が第1位の輸出相手で、輸出の約9割が石炭となっており、石炭の一大産地となっている。コロナ禍前の2019年まで28年連続で経済成長を続けたオーストラリアの中でニューサウスウェールズ州の経済規模は最大を誇る。移民政策により先進国でありながら高い人口増加率を維持するとともに生産年齢人口も増加している。一方、移民の増加により住宅不足が起こるなどの課題がある。日本からの輸入については自動車が多く、ニューサウスウェールズ州からの輸出については前述のとおりである。



【説明聴取と意見交換の様子】

【西シドニー開発について】

西シドニー開発の背景としては、シドニー大都市圏の人口が2016年の470万人から40年後の2056年には800万人に増加するとされており、人口とインフラを湾岸部から西へ展開する必要があることなどがある。開発の概要としては、産業・雇用・住居の基盤となる都市圏を3つ（東部ハーバーシティー・中央リバーシティー・西部パークランドシティー）に分散させる「シドニー3大都市圏構想」を掲げ、大規模な都市開発及びインフラの整備を行っている。東部ハーバーシティーでは、シドニー中心業務地区（CBD）を含む、シドニー中央駅付近に技術系企業・大学等を集積するテック・セントラル構想が進展している。中央リバーシティーでは、中核となるパラマタ市（オーストラリアではシドニーに次いで2番目に古い都市）のうちウェストミード地域に医療・研究開発集積地区を整備している。西部パークランドシティーでは、西シドニー空港の2026年の開港に向け2018年から整備を進めており、空港を中心とした11,200ヘクタールの地域をエアロトロポリス（空港都市）と位置付け、20万人の雇用創出を目的とした大規模開発が進行している。

■意見交換（概要）

【質 問】

エネルギー政策について、本日訪問させていただいたジェットロ・シドニーで伺ったところでは、現政権ではブルー水素からグリーン水素への転換方針がより打ち出されているとのことであった。先ほど総領事からニューサウスウェールズ州は石炭の一大産地とのご説明があったとおり、その中の褐炭については日本のエネルギー需要の200年分以上に相当する埋蔵量がオーストラリア国内にはあると伺っている。埋蔵量が豊富な褐炭を活用できれば良いと思うがいかがか。

【回 答】

褐炭を活用することは、両国の貿易の観点からは一つの方策ではあると思う。一方、議員からお話があったとおり、現政権においてはブルー水素からグリーン水素への転換方針が表明されており、両者では補

助金にも差別化が図られているところである。ニューサウスウェールズ州における電源構成を見ると、天然資源(石炭)が豊富であることから、現状では約7割が石炭・約3割が再生可能エネルギーとなっており、2030年の再生可能エネルギーの割合を約8割とする目標を現実的にどう達成していくのかの課題はあると思う。

【意見】

日本とオーストラリアは、先ほど総領事から貿易についてご説明のあったとおり、オーストラリアの豊富な資源を活かした形で関係が構築されている面があると思う。グリーン水素への転換が進むことにより、褐炭の需要が今後減少することが予想される中、埋蔵量が豊富な褐炭を他に活用できれば、今後も継続的に、日本とオーストラリアが良好な関係、パイプを維持していくことに繋がるのではと感じた。

【意見】

西シドニー開発について、新空港を含め、新しく都市開発が進んでいる状況についてご説明いただいた。新しくできる西シドニー地域と名古屋市が何か連携することを模索できれば新たな交流につながるのではと感じた。その際にはぜひご協力をお願いしたい。



【意見交換終了後に長谷川副議長から
徳田総領事への記念品贈呈】



【徳田総領事を囲んで】

カスタム・ハウス図書館との図書交流

- 時 間 12月11日(月)午後4時30分から午後6時
- 場 所 カスタム・ハウス図書館
- 対応者 サーシャ・バローニ 氏
 エグゼクティブ・マネージャー(クリエイティブ・シティ担当)
 ヘザー・デイビス 氏
 図書館・学習部門エグゼクティブ・マネージャー ほか

カスタム・ハウス図書館へは、図書交流を図るため、具体的には、シドニー市所管のカスタム・ハウス図書館の一画に、本市鶴舞中央図書館から名古屋に関する本などを寄贈し、名古屋市キャラクターや名古屋市出身のシドニーで活躍している折り紙作家ファーズ・みどり氏の作品で装飾を施した「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」を設置して、図書の交換を通じて両市の文化等の知識をお互いに知る機会の拡大を図る目的で訪問した。はじめにカスタム・ハウス図書館内を視察した後、交流行事に参加した。交流行事では、サーシャ・バローニ エグゼクティブ・マネージャー(クリエイティブ・シティ担当)から歓迎挨拶をいただいた後、松雄副市長、長谷川副議長からそれぞれ挨拶を行った。その後、名古屋市からは名古屋の文化を紹介する図書など10冊を寄贈するとともにシドニー市からも図書10冊をいただいた。なお、13日訪問のシドニー市役所において図書交流に関する覚書の締結を行っている(32ページ参照)。カスタム・ハウス図書館訪問の主な概要は下記のとおりである。

- カスタム・ハウス図書館について(概要)
 カスタム・ハウスは、1845年から1990年まで税関として実際に使用され



【カスタム・ハウスのエントランス】



【カスタム・ハウス図書館内】

ていた歴史的建造物。現在では、シドニー市が管轄し、複合的施設(2階・3階には市立図書館と展示室、最上階にはレストランなどが入っている)となっている。カスタム・ハウス図書館には、現在5万冊を超える蔵書があり、書籍・雑誌・新聞・楽譜・オーディオブックなどが置かれている。オーディオ・ビジュアル・アンド・ランゲージズという部屋には、ジャパン・コレクションと称して日本の本・漫画・雑誌・小説・DVD が配架されており、日本語の蔵書が多いという特徴がある。



【カスタム・ハウス図書館内の視察の様子】

【カスタム・ハウス図書館内を視察した後、
図書交流に係る行事に参加した】

■カスタム・ハウス図書館との図書交流について(概要)

【サーシャ・バローニ エグゼクティブ・マネージャー(クリエイティブ・シティ担当)からの歓迎挨拶(概要)】

松雄副市長、長谷川副議長はじめ名古屋市の皆様、ようこそ。名古屋市とシドニー市は、1980年から40年の長きに渡り、動物交流、シドニーマラソン、学生交流、周年事業をはじめ様々な交流を行いながら友好関係を続けてきた。そして、今日、カスタム・ハウス図書館において、皆様とお会いできたことは光栄である。2025年までの2年間、両市の知識交換という新しい形の交流を開始できることはうれしく思う。また、名古屋市の図書館には自動車図書館があるとも伺っており、名古屋市の図書館から色々学ぶ機会にもつながればよいと思う。本日はお越しいただきありがとうございました。

【松雄副市長からは、図書交流の開始について謝意が述べられるとともにシドニー市からいただいた図書については鶴舞中央図書館に配架し、名古屋市民に楽しんでいただくことを考えている旨の挨拶があった。】

【長谷川副議長からの挨拶(概要)】

本日は、私どもの訪問に際し、温かく迎え入れていただき、心より感謝申し上げます。カスタム・ハウスは風格や気品のある素晴らしい建物で、建物内の図書館は非常に温かい雰囲気を感じ、素晴らしい図書館であると感じた。この素晴らしいカスタム・ハウス図書館において、図書交流を新たに開始するという記念すべき瞬間に立ち会うことができ、大変光栄に思う。

図書交流のため設けていただけた「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」では、名古屋市出身でシドニー在住のファーズ・みどり氏に本棚の装飾をご協力いただき、両市のご縁をととても感じる。この図書交流を大切に育むことにより、シドニー市・名古屋市の両市の交流が一層深まるものと確信している。引き続きのご支援・ご協力をよろしく願います。



【長谷川副議長による
挨拶・議員紹介の様子】

【図書交流行事の様子】



【長谷川副議長からサーシャ・バローニエグゼクティブ・マネージャー(クリエイティブ・シティ担当)へ、本を贈呈する様子】



【新たに設置された「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」(本棚)の前で】

【本市から贈呈した本はこの本棚に配架され、一方、シドニー市から贈呈された本は鶴舞中央図書館に配架される】



【「名古屋シドニー姉妹都市コーナー」(本棚)の装飾にご協力いただいた、折り紙作家のファーズ・みどり氏(名古屋市出身シドニー在住)と共に】

【ファーズ・みどり氏には、松雄副市長より名古屋市からの感謝状が贈呈された】



【エグゼクティブ・マネージャー(クリエイティブ・シティ担当)のサーシャ・バローニ氏(向かって左から2番目)と図書館・学習部門エグゼクティブ・マネージャーのハザー・デイビス氏(向かって1番左)と共に】

【ハザー・デイビス氏は12月13日シドニー市役所で行われた図書交流に係る覚書の締結式にも参加】

令和 5 年12月12日(火)

- ◆公式代表団一行は、松雄副市長一行とともに、オーストラリア博物館を訪問し、館内を視察するとともに本市科学館との交流に係る表敬訪問を行った。
- ◆オーストラリア博物館での訪問終了後、松雄副市長一行とともに、タロンガ動物園を訪問し、園内を視察するとともに動物交流について意見交換を行った。

オーストラリア博物館(視察・表敬訪問)

- 時 間 12月12日(火)午前9時30分から午前11時
- 場 所 オーストラリア博物館
- 対応者 アマンダ・ファーラー 氏
オーストラリア博物館 広報・開発担当ディレクター
クリストファー・ヘルゲン 氏
オーストラリア博物館 研究所所長 ほか

オーストラリア博物館では、はじめに、アマンダ・ファーラー オーストラリア博物館 広報・開発担当ディレクターから博物館の概要について説明を聴取・視察を行った後、松雄副市長、長谷川副議長、アマンダ・ファーラー氏から、それぞれ挨拶を行った。なお、本訪問にあたっては、松雄副市長一行のほか、今後のオーストラリア博物館と本市科学館との交流を深めていくため本市科学館職員一行も同行した。訪問の主な概要は下記のとおりである。

■オーストラリア博物館について(概要)

オーストラリア博物館は、ニューサウスウェールズ州シドニー中央ビジネス地区のウィリアム・ストリート1番地に立地する歴史遺産に登録されている博物館。オーストラリアで最も古く、世界

